

教科	科目名	単位数	学年	学科またはコース	履修
理科	化学基礎	2	2	全学科	必修

科目のねらい	化学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、物質とその変化が日常生活や社会とどのように関わっているのかについて関心を持ち、その役割を理解する。 観察・実験や探究的な学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。
使用教材など	教科書：改訂 新編 化学基礎（東京書籍） 副教材：スクエア最新図説化学（第一学習社） ニューサポート改訂 新編化学基礎（東京書籍）

期	月	時数	学習内容	学習のポイント
一学期	4	L2:23	第1編 物質の成り立ち 1章 物質の成分 2章 物質の構成粒子 3章 物質と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の化学に関する事物や現象について興味を持ち、その成り立ちや原理について理解する。 ・ ガスバーナー等の実験器具の使い方を身に付ける。 ・ 元素や原子・分子・イオンについて、それぞれの違いを理解する。 ・ 化学結合の種類と性質、それらの違いを理解する。
	5	G2:24		
	6	E2:24		
	7	期末テ1		
二学期	8	L2:26	第2編 物質の変化 1章 物質と化学反応 2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粒子を集団として扱う物質の考え方を理解する。 ・ 化学反応における物質の量的関係を理解し、反応式として表せるようになる。 ・ 身近な酸と塩基について知り、その性質を理解する。 ・ 中和の意味と反応における量的関係を理解する。
	9	G2:27		
	10	E2:28		
	11	中間テ1		
三学期	1	L2:12	3章 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酸化と還元における電子の移動を理解する。 ・ 電池のしくみを理解する。 ・ 日常生活と酸化還元反応の関わりを理解する。
	2	G2:11		
	3	E2:11		
		学末テ1		

	[a 関心・意欲・態度]	[b 思考・判断・表現]	[c 技能]	[d 知識・理解]
評価の観点	日常生活との関連を図りながら、授業、観察、実験を通して、物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする姿勢が見られる。	身近な物質とその変化の中から問題を見だし、研究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。	自ら考え、見通しをもって主体的に観察、実験を行い、化学的に探究する方法の基礎を身に着けている。	観察、実験などを通して、化学の原理・法則を見いだすとともに、基本的な概念を身につけている。
評価方法	①学習プリントや教科書、ノートへの書き込み具合 ②授業の様子	①定期テスト ②レポート ③授業の様子	①観察・実験の様子 ②レポート ③授業の様子	①定期テスト ②授業の様子 ③ワーク

上記の観点に基づいて学習のまとめりにあわせて、学年末に5段階評価にまとめます。

評価項目・学習にあたって・評価点		
①定期テスト	1年に4回行われます。普段の授業に集中して取り組むことが大切です。	70~80点
②ノート・プリント・課題の提出、観察・実験	定期テストごとにノート(または授業プリント)、ワークを期日まで必ず提出してください。課題に真剣に取り組み、実験では積極的に活動してください。	30~20点